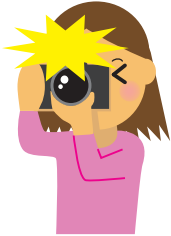


つぎ ちゅうい てん まも くだ
1、次の注意点を守って下さい。

フラッシュを
つか
使わない



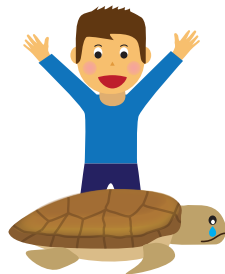
ライトを
む
向けない



おお こえ
大きな声を
だ
出さない



ちか
近づきすぎない



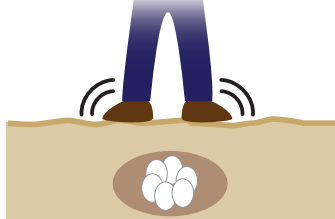
たまご
卵をとらない



さわらない



す あな しゅうへん
巣穴・周辺を
ふ かた
踏み固めない



す あな
巣穴を
ほ かえ
掘り返さない



ひらつかし はくぶつかん でん わ くだ
2、平塚市博物館にお電話下さい。

電話番号 : 0463-33-5111

平塚市博物館ではウミガメの情報を集めています。

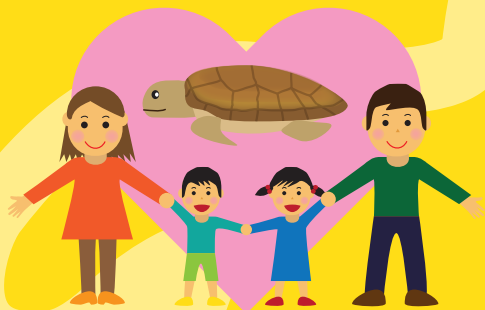
あっ！
ウミガメだ！
うみ
海でウミガメと出会った時どうすれば？
であ
とき

なぜ、^{ちゅうい}注意をしなければならないの？

○^{おや}親ガメ

^{ひと}人の^{けはい}気配があつたり^{おどろ}驚いたりすると^{さんらん}産卵をしません。一旦^{いったんさんらん}産卵を始めるとやめることはあまりありませんが、ストレスになります。

また、^{たまご}卵に触れると^ふふ化できなくなる^かことがあります。絶対に^{ぜったい}触れないで^{くだ}下さい。



○^こ子ガメ

^こ子ガメは海に帰るまでに^{さまざま}様々なことを^{がくしゅう}学習しています。自力で海に行けるように^{みまも}見守ってあげましょう。

^こ子ガメは海面に^{かいてん}反射した^{つき}月の光を^{たよ}頼りに海へ^{うみ}歩いていきます。このときに^ち地^じ磁^き気などから^{ほうかく}方角を^{がくしゅう}学習しているといわれています。強い^{つよ}光を^{ひかり}当てられると^{ほうこうかんかく}方向感覚を^{うしな}失って、海にも^{もど}戻れないばかりか、その後の^{せいちょう}成長にも^{えいきょう}影響する^{かのうせい}可能性がありますので、^{かいちゅうでんとう}懐中電灯やカメラのフラッシュには^{じゅうぶん}十分^き気をつけてください。

^{ひらつか}平塚^{かい}海岸^{がん}に来る「アカウミガメ」とは？

^{おお}大きさ ^{おや}親ガメ：80～100 cm ^こ子ガメ：4～4.5 cm

^{おも}重 さ 70～180kg (^{おや}親ガメ)

^に日本へ一番多く^{いちばんおお}産卵へ来る^{さんらん}種類で、^く神奈川県で^{しゅるい}産卵する^{かな}ウミガメはアカウミガメだけです。また、^{きたたいへいよう}北太平洋では^に日本が^{ゆいつ}唯一の^{はんしよくち}繁殖地であるとされています。

^{おな}同じく^に日本に^{さんらん}産卵へ来る^くアオウミガメと比較すると^ひ体に対して^{からだ}頭が^{たい}大きいのが^{あたま}特徴です。^{おお}雑食性ですが、^{とくちよう}海底にいる^{ざっしよくせい}軟体動物や^{かいてい}甲殻類を^{なんたいどうぶつ}好んで^{こうかくるい}食べます。^{この}

^{がつ}6月～8月の夜に^が上陸し、^{よる}深さ^{じょうりく}60cm程度の^{ふか}穴を^{ていど}掘って^{あな}産卵します。^ほ一度に^{さんらん}白色で^{いろ}直径^{ちようけい}4cm程度の^{ていど}卵を^{たまご}100～150コ程度^{ていど}産卵します。これを1シーズンに1～5回^{かいく}繰り返します。^{かえ}親ガメが^{おや}掘った^ほ穴とそこに^{あな}産み落とされた^う卵を^おまとめて、^{さんらんそう}「産卵巣」と呼びます。^よ卵は^{たまご}産卵巣の中で^{さんらんそう}発生^{なか}※が^{はっせい}進み、^{すす}産卵後^{さんらんご}2か月程度で^{げつていど}ふ化します。^かふ化後^か数日^ごから^{さんらんそう}1週間^{しゅうかん}は^{さんらんそうない}産卵巣内にと^ごどまり、その後^{さんらんそう}産卵巣から^で出てきます。

^う生まれた^こ子ガメは^{うみ}海の^{なが}流れに^{たいへいよう}のって^{おうだん}太平洋を^{おとな}横断し、^{ふたたび}大人になると^に再び^{ほん}日本へ^{かえ}帰ってくるといわれています。

※^{からだ}体が^{つく}作られていること